

令和8年度着手

県 営 しん ふじ たか 新藤高地区 土地改良事業計画書
(緊急農地防災事業)

愛 知 県

目 次

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地 域 及 び 地 積	1
第 1 節	地 域	1
第 2 節	地 積	1
第 3 章	現 況	2
第 1 節	気 象	2
1.	一 般 気 象	2
2.	特 殊 気 象	2
第 2 節	土 地 状 況	3
1.	地形、土壌及び浸食の程度	3
2.	土 地 分 類	4
3.	土地利用の状況	4
4.	土地所有の状況	4
第 3 節	水 利 状 況	5
1.	用 水 状 況	5
2.	排 水 状 況	5
3.	河 川 状 況	8
第 4 節	道 路 概 況	9
1.	道 路 概 況	9
2.	主要道路一覧表	9
第 5 節	地域農業の概況	9
1.	産業別就業人口	9
2.	経営耕地広狭別農業経営体数	9
3.	主要家畜頭数	10
4.	主要作物作付状況	11
5.	農業の動向	12
第 6 節	地域環境の概況	13

第 4 章	一 般 計 画	13
第 1 節	事業計画の要旨	13
1.	要 旨	13
2.	事業別面積	13
第 2 節	営農計画及び土地利用計画	14
1.	営農計画の概要	14
2.	土地利用区分	14
3.	作付け方式	14
4.	生 産 計 画	14
5.	労働改善計画	14
6.	級地別土地利用区分	14
7.	土地配分計画	14
第 3 節	用 水 計 画	14
第 4 節	排 水 計 画	15
1.	計画基準雨量	15
2.	計画排水方式	15
3.	計画排水系統	15
4.	計画排水量	15
5.	排 水 対 策	17
6.	たん水検討	17
第 5 節	道 路 計 画	18
第 6 節	農用地造成計画	18
第 7 節	洪水調整計画	18
第 8 節	干 拓 計 画	18
第 9 節	農用地整備計画	18
第 10 節	老朽ため池改修計画	18

第 5 章	主 要 工 事 計 画	18	
第 1 節	用 水 施 設	18	
第 2 節	排 水 施 設	18	
1.	排 水 水 門	18	
2.	排 水 機	18	
3.	排 水 路	18	
4.	その他排水施設	18	
第 3 節	道路及び索道	19	
第 4 節	農用地造成	19	
第 5 節	洪水調整施設	19	
第 6 節	干 拓 施 設	19	
第 7 節	農用地整備施設	19	
第 8 節	老朽ため池改修施設	19	
第 6 章	附 帯 工 事 計 画	19	
第 7 章	工事の着手及び完了の予定時期	19	
第 8 章	環境との調和への配慮	20	
第 9 章	管 理 の 要 領	20	
第 10 章	換地計画の概要	20	
第 11 章	事業費の総額及び内訳	20	
第 12 章	効 用	21	
第 13 章	関 連 す る 事 業	22	
第 14 章	現況・計画平面図	22	
1.	現況平面図	別 添	
2.	計画平面図及び土地利用計画図	別 添	
3.	主要構造図	別 添	

第1章 目 的

本地区は、愛知県名古屋市の西南部に位置する低平地であり、水稻を中心とした水田地帯である。

対象施設は、昭和50年度～昭和56年度のは場整備事業で設置された。しかし、設置から40年以上が経過し、経年変化による能力低下や地区内流域開発等による流出量の増加により、湛水被害が生じている。

このため、本事業により排水機場を更新し、湛水被害の防止、農業経営の安定化とともに本地域の防災力の向上を図ることを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事業名	地 域
緊急農地防災事業	名古屋市

第2節 地 積

(令和 8 年 1 月現在)(第2表)

事業名	現況地目	田	畑	原 野	山 林	その他	計	備 考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
緊急農地防災事業	名古屋市	66.1	—	—	—	3.1	69.2	名古屋市都市地計画基本図の図測面積
	計	66.1	—	—	—	3.1	69.2	
合 計		66.1	—	—	—	3.1	69.2	

第3章 現 況

第1節 気象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	蟹江観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	H3～R2	4月～9月	10月～3月		
平均気温(℃)		-	-	-	
降水量	平均(mm)	1,028	525	1,553	
	基準年(mm)	-	-	-	
降水日数	平均(日)	62	43	105	
	基準年(日)	-	-	-	
根雪期間		月 日 ～ 月 日	- 日間		
無霜期間		月 日 ～ 月 日	- 日間		
最多風向		-	最大風速 (風向)	-	

2. 特殊気象

(第3表－2)

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
蟹江観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
S51. 1. 1～R6. 12. 31																
最大日雨量(mm)	287.0	H12. 9. 11	1/203	241.5	H29. 10. 22	1/73	218.0	S51. 9. 12	1/42	182.0	S51. 9. 9	1/17	169.0	H3. 9. 19	1/12	
最大時間雨量(mm)	78.0	H12. 9. 11	1/24	77.5	H25. 9. 4	1/24	76.0	H4. 8. 11	1/21	69.0	S63. 9. 20	1/13	65.0	H18. 8. 22	1/9	5位と同じ 最大時間雨量 R6. 8. 24
最大4時間雨量 (mm)	141.0	H12. 9. 11 16:00～	1/45	135.0	H24. 9. 30 15:00～	1/35	122.5	H29. 10. 22 21:00～	1/19	118.0	S51. 9. 8 20:00～	1/16	118.0	H28. 9. 20 14:00～	1/16	
最大連続雨量(mm)	614.0	S51. 9. 7 ～9. 14	1/142	418.0	H29. 10. 13 ～10. 25	1/26	365.0	H12. 9. 11 ～9. 12	1/15	359.0	S57. 7. 24 ～8. 3	1/15	337.0	R6. 8. 23 ～9. 2	1/12	
最大連続干天日数(日)	43.0	H11. 11. 25 ～H12. 1. 6	1/762	39.0	H9. 10. 5 ～11. 12	1/242	27.0	H7. 11. 28 ～12. 24	1/10	26.0	S55. 10. 26 ～11. 20	1/8	25.0	S53. 12. 24 ～S54. 1. 17	1/7	5位と同じ 連続干天日数 S62. 12. 10 ～S63. 1. 3 H9. 8. 12～9. 5 R6. 7. 26～8. 19

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表－1－1)

事業名	地目 傾斜区分	田						畑・その他								受益地標高(m)		備考
		1/1000以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5以上	計	3°以下	3° ～ 8°	8°～15°			15° ～ 20°	20°以上	計	最高	最低	
										8° ～10°	10° ～15°	小計						
防緊 災急 事農 業地	面積 (ha)	66.1	－	－	－	－	66.1	3.1	－	－	－	－	－	－	3.1	-0.90	-1.40	
	比率 (%)	100.0	－	－	－	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	100.0			
合 計	面積 (ha)	66.1	－	－	－	－	66.1	3.1	－	－	－	－	－	－	3.1	-0.90	-1.40	
	比率 (%)	100.0	－	－	－	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	100.0			

(第4表－1－2)

土 壤 統 (区) 名	項目	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表									面積(ha)		備考	
		土 壤 断 面							堆積 様式	母 材	事業名			
		色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土性					泥炭層 黒泥層 及び グライ層	防緊 災急 事農 業地		計
						表土	下層土							
							一層	二層						
米津統		青灰色	なし	なし	糸根状、 管状有～含	粘質	粘質～ 強粘質	—	作土直下から グライ層	水積	非固結 水成岩	48.8	48.8	
針曾根統		灰色	なし	なし	膜状、糸根状、 管状有～含	壤質	壤質～ 粘質	—	80cmにグライ層 なし	水積	非固結 水成岩	17.3	17.3	
計												66.1	66.1	

2. 土地分類 該当なし

3. 土地利用の状況

(令和 8 年 1月現在) (第4表－3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						山 林	原 野	採 草 放 牧 地	そ の 他	計	備考
		水 田	普 通 畑	牧 草 地	果 樹 園	茶 園	樹園地 その他の						
		(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
緊急農地 防災事業	名古屋市	66.1	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	69.2	
	計	66.1	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	69.2	
合 計		66.1	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	69.2	

4. 土地所有の状況

(令和 8 年 1月現在) (第4表－4)

事業名	所有別 区分	個人有地等	国 有 地	県 有	市 有 地	計	備考
緊急農地 防災事業	面 積 (ha)	69.2	-	-	-	69.2	
	受 益 者 数 (人)	473	-	-	-	473	
	筆 数 (筆)	-	-	-	-	-	
	権 利 関 係	-	-	-	-		
	備 考 (関係戸数)	(83)				(83)	
合 計	面 積 (ha)	69.2		-		69.2	
	受 益 者 数 (人)	473	-	-	-	473	
	筆 数 (筆)	-	-	-	-	-	
	権 利 関 係	-	-	-	-		
	備 考 (関係戸数)	(83)				(83)	

第3節 水利状況

1. 用水状況

本地区は、木曽川の犬山頭首工を用水源として萱津分水路から取水しており、良好である。

←用水状況

2. 排水状況

本地区は、昭和50年度～昭和56年度のは場整備事業にて排水機場が設置された。

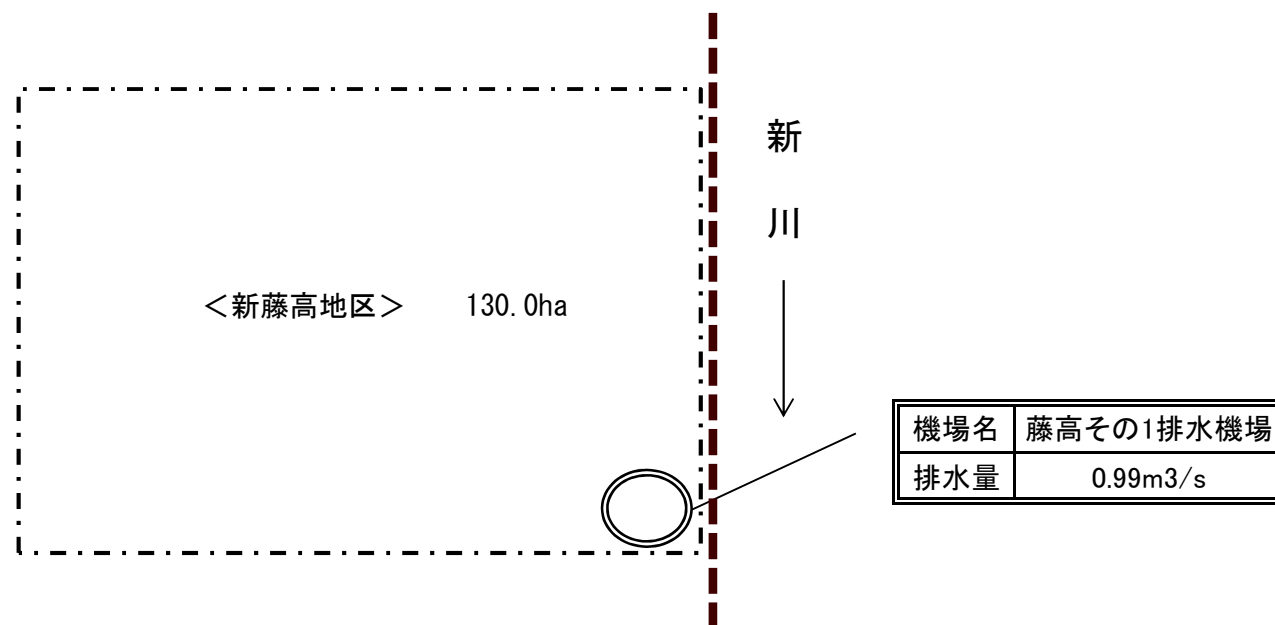
しかし、設置から40年以上が経過し、経年変化による能力低下や地区内流域開発等による流出量の増加により、湛水被害が生じている。

このため、本事業により排水機場を更新し、湛水被害の防止、農業経営の安定化とともに本地域の防災力の向上を図ることを目的とする。

(1) 排水系統

次頁 現況排水系統図 参照

現況排水系統図



凡例	
地区界(全体)	┌──┐
地区内	▭
他事業又は既設利用	---

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目		排 水 面 積						計		排水慣行 (m3/s)		現況 排水能力 (m3/s)		備 考
			100 ha 以上		99 ～ 1 ha		1 ha 未満								
	施 設 名		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
緊急農地 防災事業	自然	排 水 路	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	排水機場名 藤高その1 Q=0.99m³/s	
		水 門	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	機械	排 水 機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		水門及び排水機	1	130.0	-	-	-	-	1	130.0	-	-	0.99		
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	計		1	130.0	-	-	-	-	1	130.0	-	-	0.99		
合 計		1	130.0	-	-	-	-	1	130.0	-	-	0.99			

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項 目		施 設 名 又は 箇 所 数	受益面積 (ha)	構 造	規 模 (m)	新 設 年 又は 更 新 年	改修を必要 とする理由	備 考
緊急農地 防災事業	自然	排水路							
		水 門							
	機械								
		水門及び排水機	藤高その1排水機場	69.2	チューブラ	Φ500×1台 Q=0.32m ³ /s Φ700×1台 Q=0.67m ³ /s	S56	地区内開発に伴う流出 量の増加及び供用年数 経過による排水機場の 機能低下	
		排水路及び排水機							
		計	1	69.2					
	合 計		1	69.2					

(3) 排水に関する被害状況

(第5表－6)

事業名	項 目 施設名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)	湛 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平均減産量(t)		備 考
				湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m³)	田		畑		そ の 他		作物名	減産量 (t)	
	乾							湿	乾	湿	乾	湿				
緊急農地 防災事業	藤高その1 排水機場	130.0	336	42	47	69.2	153	－	66.1	－	－	－	3.1	水稻 ほうれんそう かんしょ キャベツ冬 ねぎ秋冬 はくさい秋冬	97.1	1/20確率
	計	130.0	336	42	47	69.2	153	－	66.1	－	－	－	3.1	水稻 ほうれんそう かんしょ キャベツ冬 ねぎ秋冬 はくさい秋冬	97.1	
	合 計		336	42	47	69.2	153	－	66.1	－	－	－	3.1	水稻 ほうれんそう かんしょ キャベツ冬 ねぎ秋冬 はくさい秋冬	97.1	

3. 河川状況

(1) 河川状況 該当なし

(2) 洪水に関する被害状況 該当なし

第4節 道路概況

1. 道路概況

本地区を南北に市道万場藤前線が縦断し、東側に市道茶屋線、南側に国道23号が通っており利便性の良い状況にある。

2. 主要道路一覧表 該当なし

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表－1)

項目	総 数	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建設業	製造業	電気ガス 熱供給 水道業	運 輸 通信業	卸 売 小売業	金 融 保険業	不動産 業	サービ ス業	公 務	その他	備 考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
名古屋市	1,053,983	2,702	42	18	47	72,830	161,675	6,158	98,174	188,134	26,688	30,904	407,503	26,945	32,163	
計	1,053,983	2,702	42	18	47	72,830	161,675	6,158	98,174	188,134	26,688	30,904	407,503	26,945	32,163	
比率 (%)	100.0	0.3	0.0	0.0	0.0	6.9	15.3	0.6	9.3	17.8	2.5	2.9	38.7	2.6	3.1	

(出典：令和2年国勢調査)

2. 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表－2)

区分 市町村名	農業 経営 体数 (経営体)	経営耕地広狭別農業経営体数 (経営体)										1経営体当たり平均農用地面積 (ha)					備考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上	田	畑	樹 園 地	草 地	計	
名古屋市	515	39	232	176	37	15	8	3	2	2	1	1.10	0.32	0.34	0.33	2.09	
計	515	39	232	176	37	15	8	3	2	2	1	1.10	0.32	0.34	0.33	2.09	
比率 (%)	100.0	7.6	45.0	34.2	7.2	2.9	1.6	0.6	0.4	0.4	0.2	52.6	15.3	16.3	15.8	100.0	

(出典：2020年農林業センサス)

3. 主要家畜頭数

(第7表－3)

市町村名	項 目	主 要 家 畜								備 考
		乳 用 牛		肉 用 牛		豚		家きん		
		数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営体数 (経営体)	
名古屋市	—	—	X	1	—	—	—	—	「-」は、調査は行ったが事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計値を公表しないもの。	
計	—	—	X	1	—	—	—	—		
100経営体 当り数量 (頭、100羽)	—		X		—		—			
飼養経営体数割合 (%)										

(出典：2020年農林業センサス)

4. 主要作物作付状況

(第7表－4)

市 町 村 名	名古屋市	計	作付割合 (%)	備考
総耕地面積 (ha)	523	523		
区 分 作物名	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)		
水 稻	307	307	88	作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）面積である。 「-」は、調査は行ったが事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
麦類	3	3	1	
雑穀	0	0	-	
いも類	3	3	1	
豆類	2	2	1	
工芸作物	X	0	-	
野菜類	X	0	-	
果樹類	32	32	9	
花き類・花木	X	0	-	
そ の 他 の 作 物	X	0	-	
計	347	347	100	

(出典：第67次東海農林水産統計年報, 2020年農林業センサス)

5. 農業の動向

(第7表－5)

項目 区分	農家			土地			主要作物			主要家畜			地域指定等	備考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (Cを100とする指数)	農業経営体数	77	45	耕地	84	71	水稻	X	84	乳用牛	X	X	農振整備計画 昭和45年12月指定 昭和47年4月承認	A：令和 2年 (2020年) B：平成 27年 (2015年) C：平成 22年 (2010年) X:数値が公表されていないために指数を求められないもの。
	個人経営体数	77	44	田	87	78	麦類	X	300	肉牛	X	X		
	団体経営体(法人)数	X	108	畑	81	57	野菜類	X	X	豚	X	X		
	団体経営体(非法人)数	13	25	樹園地	75	67	果樹	X	60	家きん	19	X		
				牧草地	50	17								
変化の理由	全体的に経営体数は減少傾向にある。経営体数の減少は、高齢化の進行及び後継者数の減少によるものである。一方、農業法の改正等により一般法人が参入しやすくなったことなどから、団体経営体(法人)が増加している。			農業経営体数の減少により、全ての地目面積も減少傾向にある。減少は、宅地等他地目への転用によるものである。			統計数値が公表されていないため、動向の把握が困難であるが、水田の高度利用の推奨作物として麦類は増加傾向、逆に水稻は減少傾向にある。果樹の減少は樹園地の減少によるものである。			統計数値が公表されていないため、動向の把握が困難であるが、家きんは飼料コストの高騰や疾病リスクの増大等により経営継続が困難となり、飼育数は減少している。				

(出典：2010年, 2015年, 2020年農林業センサス)

第6節 地域環境の概況

名古屋市における環境への配慮項目は次の通りである。

① 特に配慮すべき生物環境

植 物：マメナシ、シデコブシ、シラタマホシクサ、サギソウ、フジバカマ等

哺乳類：タヌキ、キツネ、アナグマ、イタチ等

魚 類：フナ、ボラ等

鳥 類：シギ、チドリ類、オオヨシゴイ、セイタカシギ、ヤイロチョウ等

昆虫類：ヒメボタル、ヒメタイコウチ、ヒメヒカゲ、ハッチョウトンボ等

② 特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

庄内川流域の田園地帯、市中心部の緑豊かな市街地、市東部丘陵地の樹林地、宝生院開山塔、龍澤寺須弥壇、龍泉寺仁王門等

第4章 一 般 計 画

第1節 事業計画の要旨

1. 要旨 本地区の排水機場は設置から40年以上が経過し、経年変化による能力低下や地区内流域開発等による流出量の増加により、
湛水被害が生じている。

このため、本事業により排水機場を更新し、湛水被害の防止、農業経営の安定化とともに本地域の防災力の向上を図ることを
目的とする。

2. 事業別面積

(第8表)

	事業名	緊急農地防災事業												計 (ha)	
	土地利用区分	水 田	普 通 畑	牧 草 地	果 樹 園	そ の 他	小 計	水 田	普 通 畑	牧 草 地	果 樹 園	そ の 他	小 計		
事業目的		(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		
湛水被害防止		66.1	-	-	-	3.1	69.2	-	-	-	-	-	-	69.2	
計		66.1	-	-	-	3.1	69.2	-	-	-	-	-	-	69.2	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

湛水被害を防止し、農業経営の安定を期す。

2. 土地利用区分

(第9表－1)

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	区分												
事業 地緊急 防災農	現況	66.1	—	—	—	—	—	66.1	—	—	3.1	69.2	
	計画	66.1	—	—	—	—	—	66.1	—	—	3.1	69.2	
計	現況	66.1	—	—	—	—	—	66.1	—	—	3.1	69.2	
	計画	66.1	—	—	—	—	—	66.1	—	—	3.1	69.2	

3. 作付方式 該当なし

4. 生産計画 該当なし

5. 労働改善計画 該当なし

6. 級地別土地利用区分 該当なし

7. 土地配分計画 該当なし

第3節 用水計画 該当なし

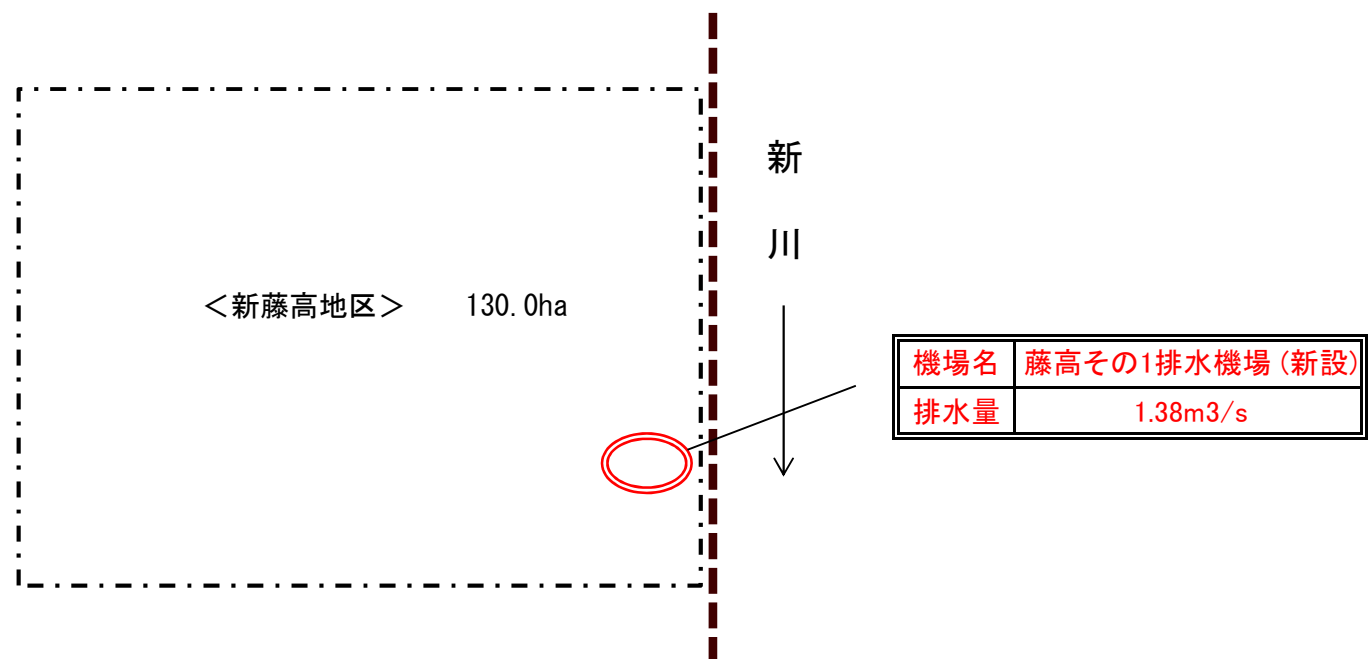
第4節 排水計画

1. 計画基準雨量 336mm/3日 (1/20確率)
2. 計画排水方式 排水方法 機械排水
許容湛水 湛水深30cm以上の湛水時間が24時間以内
3. 計画排水系統 次頁 計画排水系統図 参照
4. 計画排水量

(第11表－1)

項目 排水系統名	受益面積(ha)		流域面積		基準 雨量	降 雨 に よ る 直接単位流出量		基底流出量		全 排 水 量 (m3/s)			単位排水量		備考
	事業名		(km2)			(m3/s/km2)		(m3/s/km2)		山 地	平地		(m3/s/km2)		
	緊急農地 防災事業	計	山 地	平 地		(mm/3日)	山 地	平 地	山 地		平 地	自然排水	機械排水	山 地	
新藤高	69.2	69.2	—	1.30	336	—	2.654	—	0.100	—	—	1.38	—	1.06	
計	69.2	69.2	—	1.30						—	—	1.38	—	1.06	

計画排水系統図



凡例	
地区界 (全体)	
地区内	
他事業又は既設利用	

5. 排水対策

(1) 排水水門 該当なし

(2) 排水機

(第11表-3)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)		計画排水量		排水機				備考
		事業名		排水量 (m ³ /s)	地区内 湛水深 (m)	実揚程	排水量	台数	全排水量	
		緊急農地 防災事業	計			(m)	(m ³ /s)	(台)	(m ³ /s)	
藤高その1排水機場	1.30	69.2	69.2	1.38	0.35	4.38	0.93	1	1.38	
						4.38	0.45	1		
計	1.30	69.2	—	1.38	0.35	8.76	1.38	2	1.38	

(3) 排水路 該当なし

(4) その他 該当なし

6. たん水検討

たん水の検討を行った結果は次表のとおりである。

区分	基準田面標高 (m)	許容湛水深 (m)	許容湛水深以上 湛水時間 (hr)	最大湛水深 (m)	最大湛水面積 (ha)	備考
現況1/20確率	-1.40	0.30	47	0.42	69.2	
計画1/20確率	-1.40	0.30	24	0.35	60.0	
計画1/10確率	-1.20	0.05	1	0.05	42.2	

第5節 道路計画	該当なし
第6節 農用地造成計画	該当なし
第7節 洪水調整計画	該当なし
第8節 干拓計画	該当なし
第9節 農用地整備計画	該当なし
第10節 老朽ため池改修計画	該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設 該当なし

第2節 排水施設

1. 排水水門 該当なし

2. 排水機

(第18表-2)

項目 名称	位置	排水量 (m ³ /s)	揚程 (m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力	台数 (台)	
藤高その1排水機場	名古屋市	0.93	4.93	4.38	立軸斜流	Φ700	1	エンジン	70kw	1	
		0.45	4.93	4.38	立軸斜流	Φ500	1	モーター	40kw	1	
計		1.38					2			2	

3. 排水路 該当なし

4. その他排水施設 該当なし

第3節 道路及び索道 該当なし

第4節 農用地造成 該当なし

第5節 洪水調整施設 該当なし

第6節 干拓施設 該当なし

第7節 農用地整備施設 該当なし

第8節 老朽ため池改修施設 該当なし

第6章 附帯工事計画 該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工期

着 手 令和 8 年度
完了予定 令和 17 年度（予定）

2. 工事の年度割予定

年 度 事業名	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	令和 13 年度	令和 14 年度	令和 15 年度	令和 16 年度	令和 17 年度	備考
緊急農地防災事業											

第 8 章 環境との調和への配慮

① 配慮の対象

令和6年9月及び12月に環境調査を実施した結果、重要種は確認されなかったが、本地区は名古屋市田園環境整備マスタープランにおいて環境配慮区域となっている。排水機場の遊水地には、モツゴ、ヨシノボリ属等の魚類が多く生息しており、これら魚類を環境配慮の保全の対象とする。

② 配慮の考え方

工事区域内に配慮すべき生物が入り込んだ場合は、捕獲し、影響のない区域へ移動させる。濁水・土砂流出の防止を図り、水生生物の生息環境に悪影響を及ぼさないよう配慮する。

第 9 章 管理の要領

県営緊急農地防災事業新藤高地区により造成された土地改良施設は、藤高土地改良区が管理する。

第10章 換地計画の概要 該当なし

第11章 事業費の総額及び内訳 (第26表)

区 分 \ 事業名		緊 急 農 地 防 災 (千円)	備 考
事 業 費 ※ 1)		2, 483, 163	
事 務 的 経 費 ※ 2)		368, 837	
計		2, 852, 000	
(関 連 参 考 事 業)			

令和 7 年度単価。消費税については10%にて算定（但し、物価変動により将来変動することがある。）

※ 1）事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※ 2）事務的経費とは愛知県緊急農地防災事業実施要綱により定められた事務費及び工事雑費。

事業名	項 目	年 総 効 果（ 便 益 ） 額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	備 考
	区 分			
緊急農地防災	作物生産効果	19, 179	19, 179	
	維持管理費節減効果	△ 2, 349	270	
	災害防止効果 (農業関係資産)	185, 307	81, 019	
	災害防止効果 (一般資産)	16, 146	-	
	国産農産物 安定供給効果	3, 888	-	
	計	222, 171	100, 468	令和 7 年度単価

(参考)

① 当該事業費	2, 018, 188 千円
② 関連事業費	868, 300 千円
③ 総費用（現在価値化）	2, 886, 488 千円
④ 年償還額	- 千円/年
④' うち機能向上分	- 千円/年
⑤ 年総効果(便益)額	222, 171 千円/年
⑥ 現況年総農業所得額	20, 466 千円/年
⑦ 年総増加農業所得額	100, 468 千円/年
⑧ 総便益額（現在価値化）	4, 113, 392 千円
評価期間	50年
割引率	0. 04
総費用総便益比 = (⑧÷③)	1. 42 ≥ 1. 0
総所得償還率 = (④÷⑥)	- ≤ 0. 2
増加所得償還率 = (④' ÷⑦)	- ≤ 0. 4

第13章 関連する事業

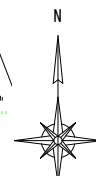
該当なし

第14章 現況・計画平面図

- | | | |
|-------------------|---|---|
| 1. 現況平面図 | 別 | 添 |
| 2. 計画平面図及び土地利用計画図 | 別 | 添 |
| 3. 主要構造図 | 別 | 添 |

緊急農地防災事業 新藤高地区 現況平面図

S=1:5,000



新
川

凡 例	
	流域
	排水機場(既設・撤去)
	吐出樋管(既設・撤去)
M	モーター
E	エンジン
	幹線排水路
	地区内排水路

概 要	
流域面積	130.0 ha

藤高その1排水機場(既設)
Mφ500×40kw×1
Mφ700×75kw×1
Q=0.99m³/s
吐出樋管(既設)
H1.00m×B1.00m

名古屋市都市計画基本図(1/2500)を加工して作成

緊急農地防災事業 新藤高地区 計画平面図及び土地利用計画図

S=1:5,000



- 例
- 流域境界
 - 農業地域
 - 農業用施設用地
 - 吐出樋管（新設）
 - 排水機場（新設）
 - 吐出樋管（既設）
 - 排水機場（既設）

概要	
流域面積	130.0 ha
受益面積	69.2 ha
主要工事	排水機場 1ヶ所

藤高その1排水機場（新設）
Mφ500×40kw×1
Eφ700×80kw×1
Q=1.38m³/s

藤高その1排水機場（既設・撤去）
Mφ500×40kw×1
Mφ700×75kw×1
Q=0.99m³/s

吐出樋管（既設・撤去）
H1.00m×B1.00m

吐出樋管（新設）
H1.00m×B1.00m

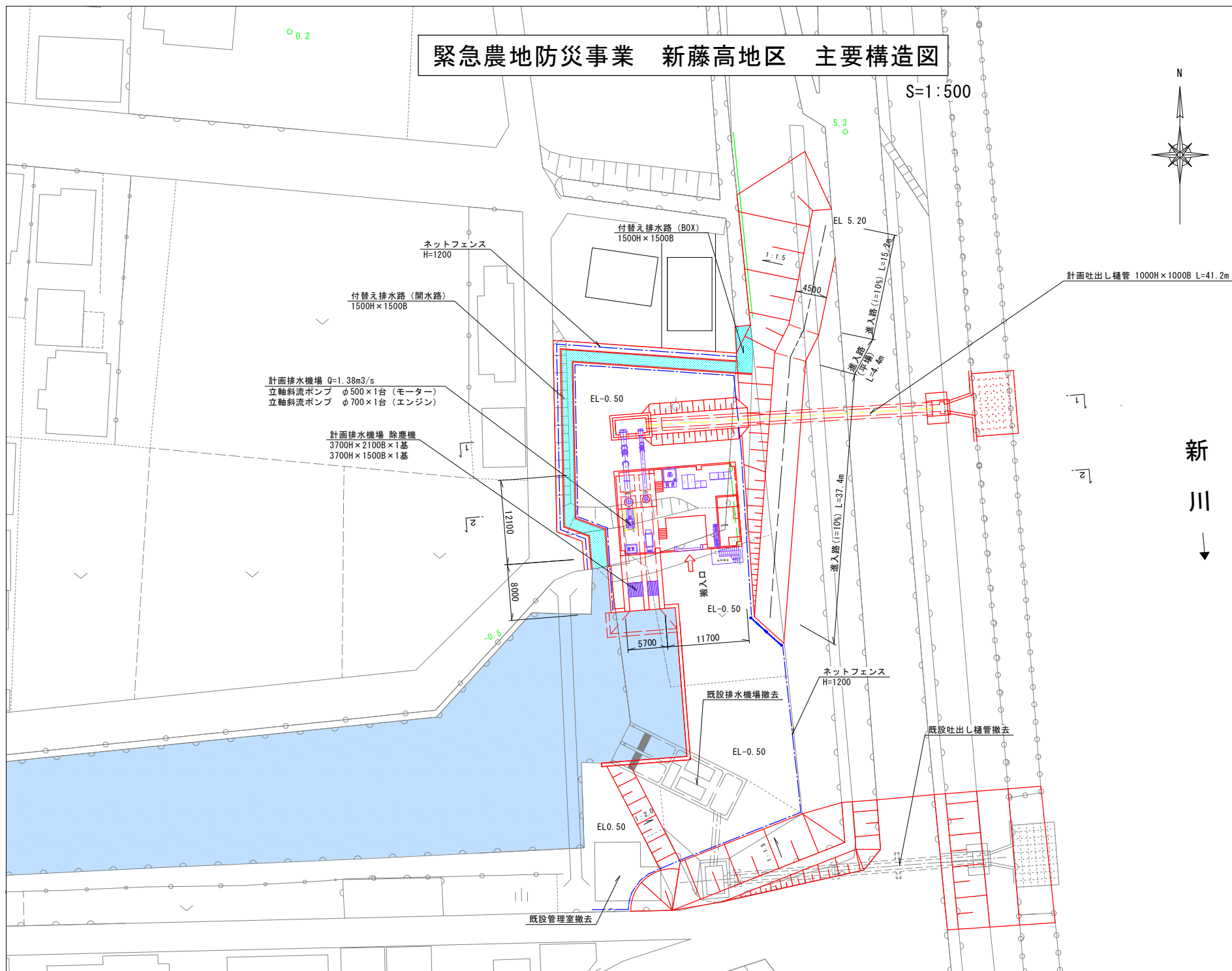
名古屋市都市計画基本図(1/2500)を加工して作成

緊急農地防災事業 新藤高地区 主要構造図

S=1 : 500



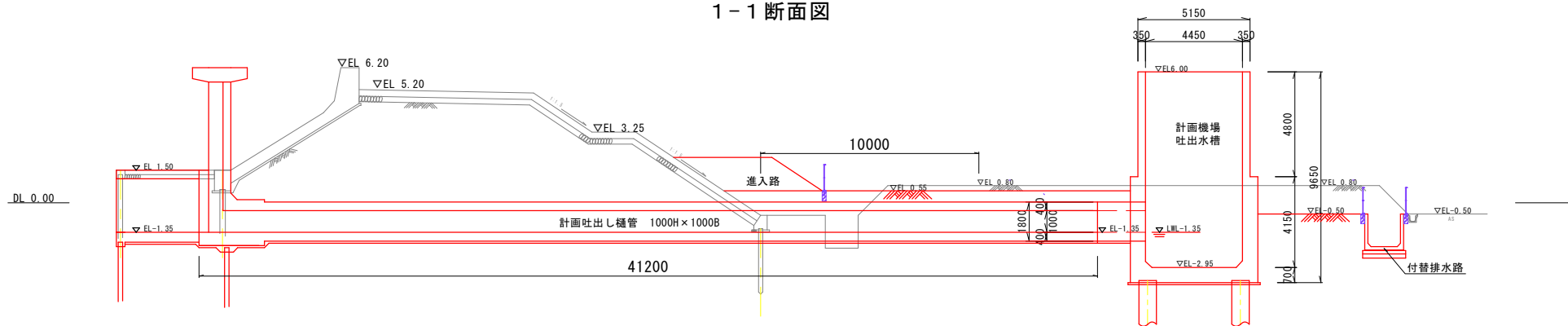
新
川
↓



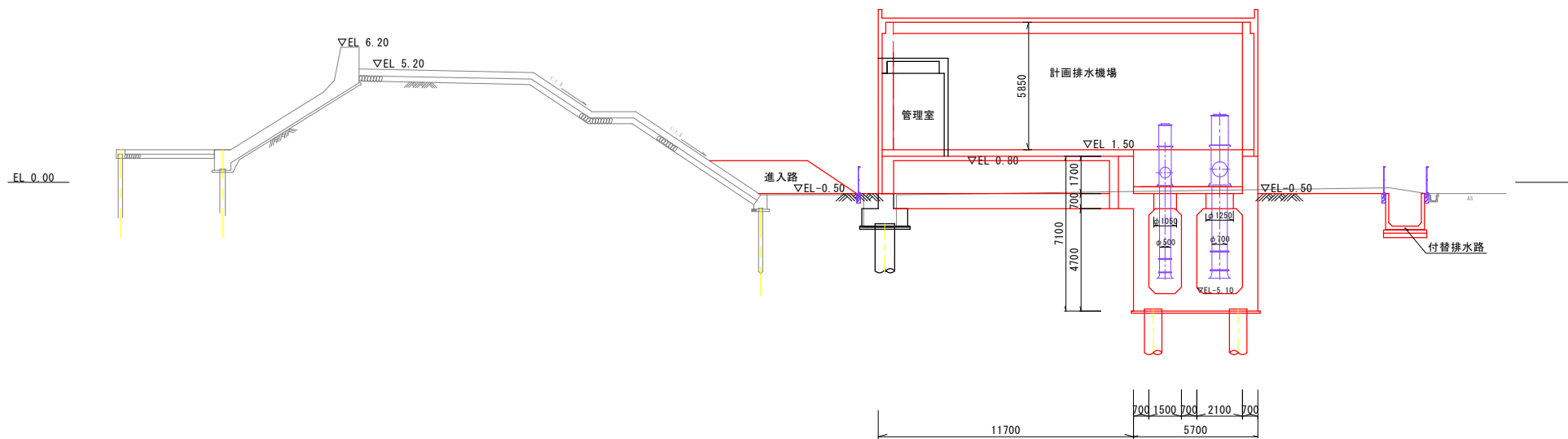
緊急農地防災事業 新藤高地区 主要構造図

S=1 : 200

1-1 断面図



2-2 断面図

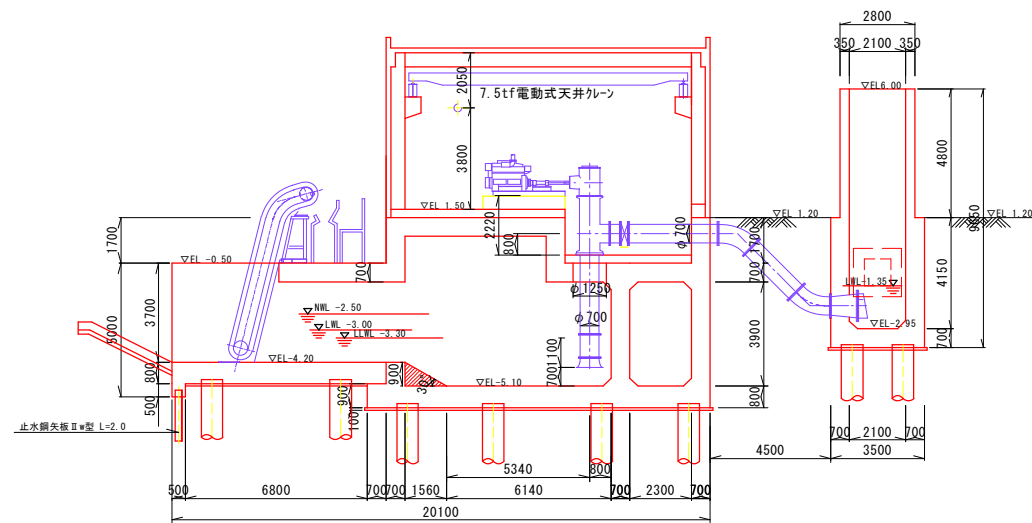
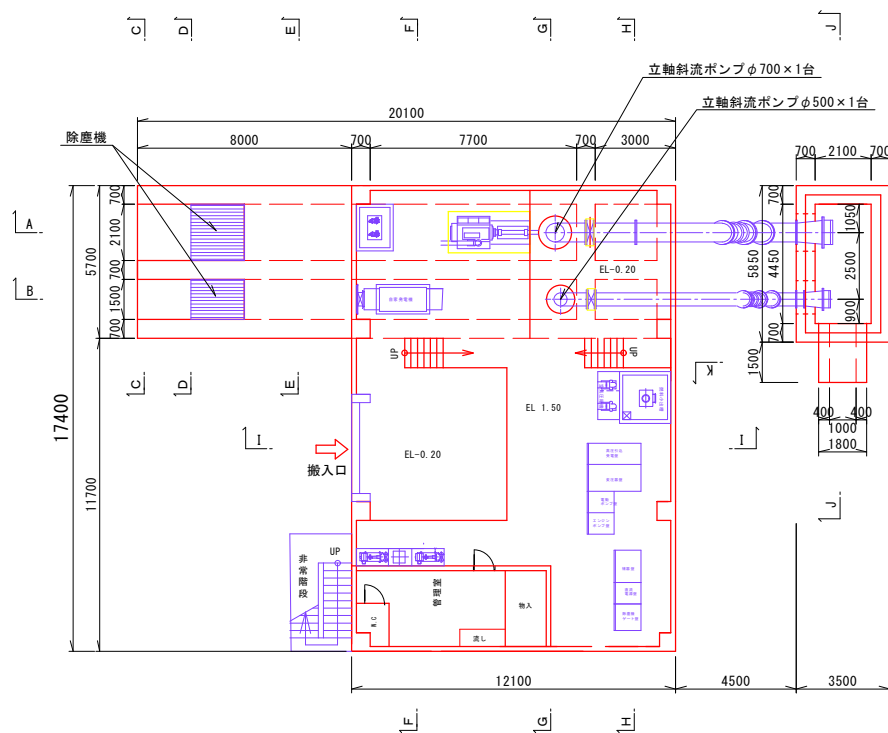


緊急農地防災事業 新藤高地区 主要構造図

S=1:200

A-A断面図

平面図



B-B断面図

